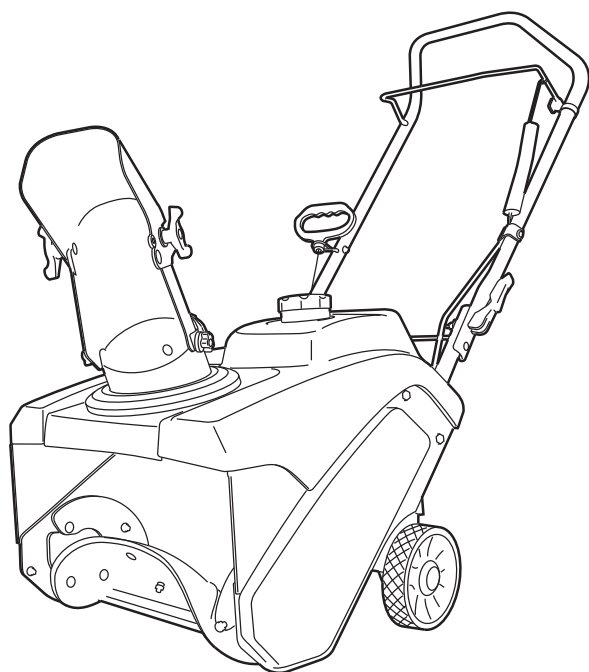


MEIHO



取扱説明書

SNOW BLOWER

スノーブロワ
MSB18

WAKITA & CO., LTD.

はじめに

このたび当社スノーブロワをお買い上げ頂き誠に有難うございます。

まず、次の点を確認して下さい。

- 機種は、御注文通りのものかどうか…
- 輸送中の事故で、破損していないかどうか…
- 付属品が全部そろっているかどうか…

もし、不具合な点がありましたら、製造番号と共に購入店または弊社支店・営業所へお知らせください。

**スノーブロワは除雪作業をする機械です。
他の目的で使用される時は弊社営業所に問い合わせして下さい。**

**製品は取り扱いを誤ると、事故や故障の原因になります。
ご使用前に本書を最後まで熟読して下さい。10分あれば読めます。**

- スノーブロワについてよくご存じの方でも、この製品独自の取り扱い方法がありますので必ずお読みいただいたうえでご使用下さい。
- 本書では、製品の正しい取り扱い方法や簡単な手入れ方法について記載してあります。
- 不明のところは製品の購入店または弊社支店・営業所におたずね下さい。

なお、製品の仕様等の変更により、内容が一部異なっている場合がありますのでご了承ください。

※製品を譲られる場合は、次の運転者のために本書と一緒にお渡し下さい。

目次

安全に関する表示

第1章 安全作業のために	1
一般事項	1
第2章 各部の名称と仕様	8
2-1 安全ラベル	8
2-2 各部の名称	9
2-3 仕様	10
第3章 始動・運転と停止	11
3-1 本体の準備	11
3-1-1 シューターの取付け	11
3-1-2 ハンドルを起こす	11
3-2 エンジン始動の準備	12
3-2-1 エンジンオイル量の点検方法	12
3-2-2 燃料の給油	13
3-3 始動 / 運転 / 停止の方法	14
3-3-1 エンジンの始動方法	14
3-3-2 運転方法	16
3-3-3 停止方法	16
第4章 除雪作業	17
4-1 除雪作業の準備	17
4-2 除雪作業	17
4-3 除雪部が詰まった時は	19
4-3-1 投雪口に詰まった雪の除去	19
4-3-2 オーガに噛み込んだ異物の除去	19
第5章 保管方法	20
5-1 使用後の取扱い	20
5-2 長期保存の方法	20
5-2-1 燃料の排出	21
5-2-2 エンジンの手入れ	22
5-2-3 点検と防錆	22
5-3 長期保管後の始動	22

第 6 章	保守点検	23
6-1	エンジンオイルの交換	23
6-2	点火プラグの点検、調整	24
6-3	オーガベルトの交換	25
6-4	オーガラバーの交換	25
6-5	スノーボードの交換	26
6-6	オーガクラッチワイヤーの調整	26
第 7 章	トラブルシューティング	27

安全に関する表示

安全規則を守らない作業は重大事故の発生につながります。

製品の運転や日常点検の前には、必ずこの取扱説明書をよく読み、十分に理解して下さい。

本書及び当製品で使用する安全に関する表示は、その内容や危険の度合いにより次のように使い分けてあります。

▲ 危 険

重大な人身事故もしくは死亡事故に至る切迫した危険が存在していることを示します。
メッセージには、危険の内容とその危険を回避するための予防措置が記載されています。

▲ 警 告

重大な人身事故もしくは死亡事故に至る可能性のある危険が存在していることを示します。
メッセージには、危険の内容とその危険を回避するための予防措置が記載されています。

▲ 注 意

人身事故もしくは製品の重大な破損に至る可能性のある危険が存在していることを示します。
メッセージには、危険の内容とその危険を回避するための予防措置が記載されています。

重 要

製品の損傷や著しい性能低下を招く可能性のあることを示します。
メッセージには、それらを回避するために守らなければならない注意事項が示されています。

当社では、あらゆる環境下における作業において起こりうるすべての危険を予測することはできません。したがって、本書に記載されている注意事項はすべてを網羅したものではありませんので、お客様の責任において、十分な注意を払って製品をご使用頂くようお願いいたします。

第1章 安全作業のために

安全上の基本的注意事項

一般事項

安全運転のために、次のことがらを必ず守って下さい。

1. 取扱説明書を読む

⚠ 危険

- 取扱説明書を良く読み理解するまで運転しないでください。誤った方法による運転操作は非常に危険であり人身事故を起こす原因になります。
- 安全ラベルを事前に読み、十分理解した上で操作して下さい。また、カバーや安全ラベルを外して操作しないで下さい。

- 取扱説明書は常に保管し、本製品を取扱うすべての人が繰り返し読むようにして下さい。
- 各部の操作に十分慣れ、すばやく停止する方法を習得してから作業するようにして下さい。
- 子供や説明をうけていない大人に運転させない様、注意して下さい。



2. 体調の管理

⚠ 危険

過労や病気、飲酒した時など正常な除雪作業ができない場合は除雪作業を行わないで下さい。

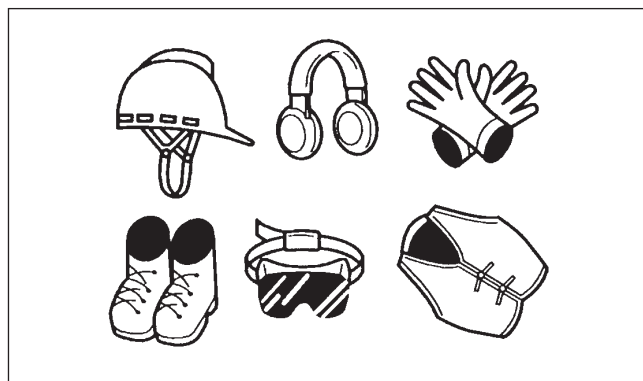


3. 安全な服装で！

⚠ 危険

作業に応じて手袋、帽子、防寒服、防寒靴など作業に適した服装を着用して下さい。また防寒靴はすべり止めのあるものを着用して下さい。

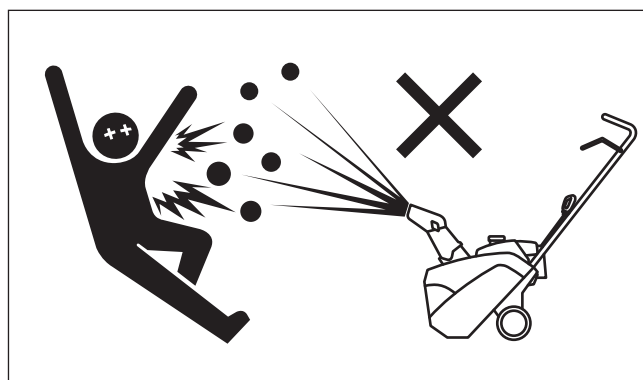
- だぶだぶの服やマフラーなどは、本機の回転部分に巻き込まれたり作業レバーや他の突起物に誤ってひっかかる恐れがあります。



4. 周囲の安全確認

⚠ 危 険

- 除雪作業を行う前に除雪しようとする場所を点検して下さい。石、木片、針金などの障害物を取り除いて下さい。障害物を巻き込むとスノーブロワの故障の原因になるとともに思わぬ事故の原因にもなります。
- 砂利道などの除雪はシューターからの石の飛び出しなど非常に危険を伴いますので、注意して作業して下さい。
- 投雪場所はシューターから石が飛び出しても支障がないところを選んでください。氷や石が混入した場合は雪よりも遠くまで飛ぶことがあります。
- 雪の中に異物が混じっていた場合、シューターからだけでなく、前方に投げ出されることがありますので、前方にも注意して下さい。
- シューターを人や建物に向けて使用しないで下さい。
- 降雪のため障害物が見えなくなっている場合があります。降雪シーズン前に除雪しようとする場所の障害物をあらかじめ取り除くようにして下さい。



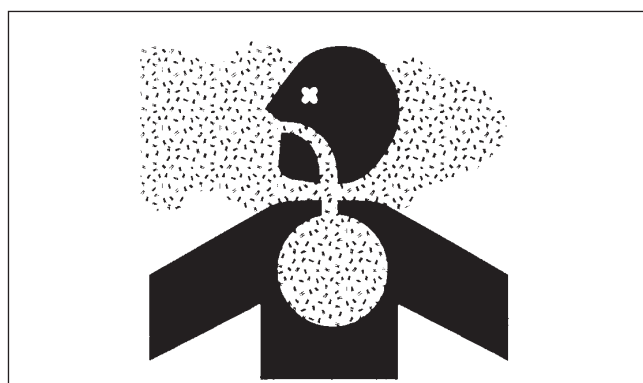
⚠ 注 意

本機を運転する時は、子供や動物など作業に関係のない者を遠ざけて下さい。もし人や動物が近づいた時は除雪作業を中止して下さい。

5. 排気ガスに注意

⚠ 危 険

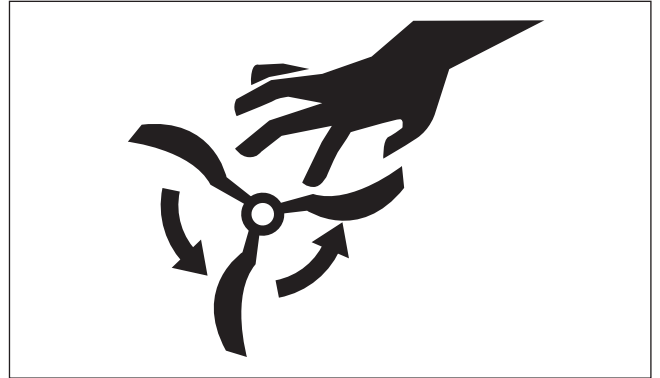
- エンジンの排気ガスは有毒です。
- 屋内や換気の悪い場所でエンジンをかけないでください。ガス中毒を起こす恐れがあります。



6. 回転部に注意

⚠ 警告

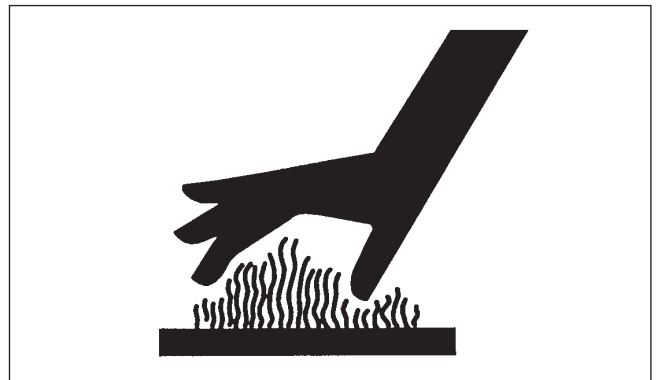
- 除雪部は回転しています。衣類が巻き込まれたり誤って触れると大けがをする恐れがあります。絶対に手や足を近づけないようにして下さい。
- オーガ、シューターに雪や異物が詰まった時はエンジンキーを抜いてエンジンを停止し、各部の回転が止まってから必ず雪かき棒などで除去して下さい。エンジン回転中に絶対に手を入れないで下さい。大けがをする恐れがあります。
- 除雪中に障害物に当たった時はすぐにエンジンキーを抜きエンジンを止め、オーガの回転が止まってから損傷を確認して下さい。損傷があった場合は作業を中止して下さい。
- エンジン回転中は絶対にシューターに顔を近づけないようにして下さい。雪や氷、石などが飛び出すおそれがあります。



7. 高温注意

⚠ 警告

- エンジンオイルの給油・交換・点検はエンジンが冷えてから行って下さい。エンジン停止直後はエンジンオイルが高温になっていますので注意して下さい。
- 本機が停止していてもエンジン、マフラーに触れないで下さい。操作中に高温になっていますので触れると火傷の危険があります。
- 運転中、運転直後に本機を移動しないで下さい。エンジン、マフラー等の高温部に触れて火傷の危険があります。



8. 火気厳禁

⚠ 危 険

- 燃料の無鉛ガソリンは引火し易いので注意して取扱って下さい。
- エンジンの運転中、給油中は絶対に煙草を吸わないで下さい。
- 傾斜地で運転しないで下さい。燃料タンク、キャブレターから燃料が漏れ火災の原因になります。
- マフラーの近くに障害物を置かないで下さい。火災の原因になります。

⚠ 警 告

- 本機運転中は燃料、スプレー等の可燃物質を近くで使用、放置しないで下さい。引火して火災の恐れがあります。
- 燃料の補給は、エンジンを停止して換気の良い場所で行ってください。

⚠ 注 意

- 本機に物をかぶせて運転したり、近くに燃えやすい物を置かないで下さい。加熱して発火する恐れがあります。
- 燃料はこぼさなように補給して下さい。こぼれた場合は十分にふきとって下さい。
- 燃料を補給する時はエンジンを停止し、冷却時間をおいてから燃料を補給して下さい。
- きれいな場所で燃料を補給し、給油場所からはなれた所で起動して下さい。
- 燃料は屋内の熱器具が近くにない、冷たい乾いた場所で破損のない鍵のかかる容器に入れて保管して下さい。
- 燃料は自動車用無鉛ガソリンを使用して下さい。
- 終業時にカバーをかける時は、エンジンが十分冷えてから行って下さい。



9. 使用時の注意

⚠ 危 険

- 除雪部は回転しています。誤って触れると大けがをする恐れがあります。絶対に手や足を近づけないようにして下さい。
- 屋根に積もった雪や急斜面での除雪は行わないで下さい。スノーブロワが転倒してけがをする危険があります。

⚠ 警 告

- エンジンを始動する前に必ず始業点検を行って下さい。事故や機器の損傷の防止になります。
- 点検で不具合のあった場合は修理をして下さい。不備な状態での使用は絶対に行わないで下さい。
- 悪天候などで視界の悪い時には作業をしないで下さい。事故の危険性が高くなります。
- 雪の上での作業は滑りやすく転倒の恐れがあります。ハンドルをしっかり握り、ゆっくりと前進して下さい。
- 後進時には足元、後方に注意し、転倒したり障害物にはさまれたりしないように注意して下さい。
- 共同作業は行わないで下さい。思わぬ事故の原因となることがあります。
- 傾斜面を横切って除雪しないで下さい。傾斜面での方向変換は、動きが平地と異なる場合がありますので十分注意して下さい。

⚠ 注 意

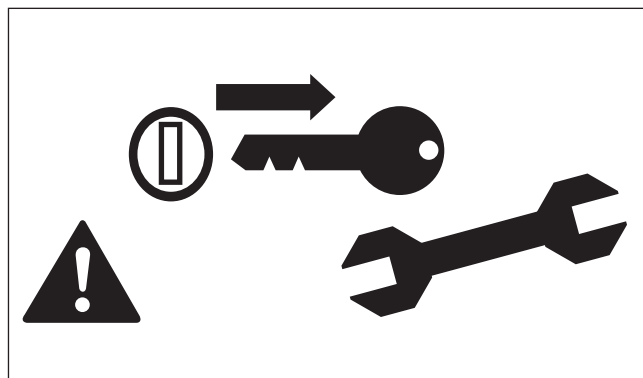
- 作業中に異常な振動・音を感じた時は、直ちに運転を中止し原因を調べて下さい。異常な振動や音は故障が原因の可能性あります。



10. 一時中断、移動、長期保管

⚠ 警 告

- 本機から離れる時は、スノーボードを接地させ、エンジンキーを抜いて下さい。
- 本機を格納する時やカバーをかける時はエンジンが十分冷えたことを確認して行って下さい。
- 点検や清掃をする時は必ずエンジンキーを抜いてエンジンを停止して下さい。また停止直後はエンジン本体やマフラーなどは非常に熱くなっています。火傷しないよう各部が十分に冷えてから行って下さい。



⚠ 注 意

- 移動させる時は必ずエンジンキーを抜いてエンジン停止後、エンジンが冷えてから行って下さい。
- 燃料を入れたまま本機を保管しないで下さい。燃料を入れたまま長期に保管すると火災の原因になります。長期に保管する時は燃料を抜き取り、安全な場所に移しエンジンが十分に冷えてから格納して下さい。
- 枯れ草や紙、油、木材など燃えやすいものがある所には駐停車・保管しないで下さい。排気ガスの熱により着火する恐れがあります。
- 植え込みなどの近くに駐停車する時は、排気ガスが当たらないように注意して下さい。
- 幼児や子供が触れない場所で保管して下さい。

11. 点検・清掃する時の注意

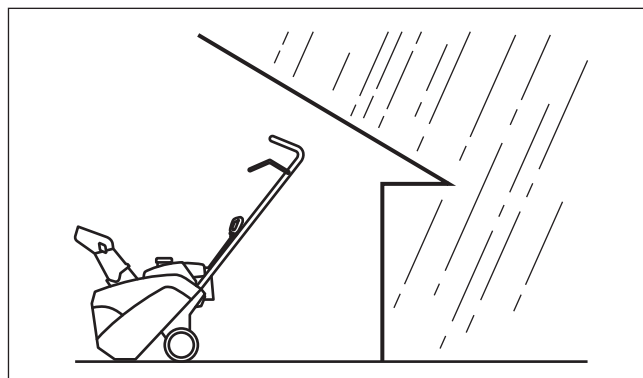
⚠ 注 意

- 点検・清掃する時はエンジンを停止してから行って下さい。
- 点検・清掃する時はエンジンキーを抜いて、偶発的にエンジンが始動しないようにして下さい。

12. 安全作業かつ製品寿命を延ばすために

⚠ 注 意

- 使用前（使用后）本機を清掃して下さい。
- 常に各部のボルト・ナットに緩みがないかを確認して使用して下さい。
- 除雪部に異物が詰まったり、絡まったりしていないか点検して下さい。
- 保管前には雪を完全に除去し、乾燥した状態で保管して下さい。
- 本機の汚れた場合は必ず清掃して下さい。雨水のかからない乾燥した場所で保管して下さい。
- 燃料を補給する前に燃料キャップまわりとキャップを十分に清掃して下さい。
- 不注意なキャブレターの調整はキャブレターだけではなくエンジンの損傷の原因になりますので注意して下さい。
- 本機を止める時はオーガクラッチレバーを放してからエンジンキーを抜いて停止して下さい。緊急事態に備えて迅速な停止方法の知識を再確認して下さい。
- マフラーを取り外した状態で運転しないで下さい。
- エンジンオイルが規定量入っているか確認してからエンジンを始動させて下さい。
- エンジンオイルは定期的に交換して下さい。
- エンジン始動時にエンジンオイルキャップが確実に閉まっているか確認して下さい。
- 古い燃料は使用しないで下さい。燃料の変質により始動不良、運転不調の原因になります。
- 定期的な点検整備を行って下さい。
- 除雪以外の用途に使用しないで下さい。



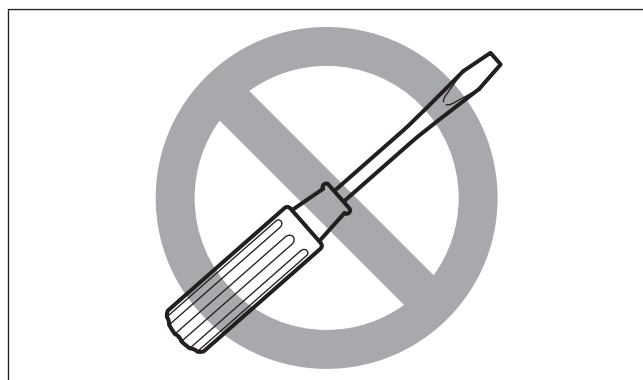
13. その他の注意

⚠ 警 告

- 修理技術者以外の方が分解、修理を行わないで下さい。また改造などは絶対にしないで下さい。異常動作をしてケガの原因になります。
- お客様にて分解・改造された場合は、メーカー保証外となります。
- 運搬する必要がある時には燃料もれを防ぐため燃料を抜いてから行って下さい。また運搬時はロープ等で固定して下さい。

⚠ 注 意

- 補修部品は必ず純正部品を使用して下さい。



第2章 各部の名称と仕様

2-1 安全ラベル

スノーブロワを安全に使用していただくため安全ラベルが貼ってあります。安全ラベルを全てお読みになってからご使用ください。

安全ラベルが破損したり汚れたりして読めなくなった時、安全ラベルが貼られた部品を交換する時は新しいラベルに貼り替えてください。新しいラベルは販売店にご注文ください。

マフラー 高温注意

ガソリン

注意 気温が低い時(−10℃以下)はプライミングポンプを2・3度押しして始動してください。

警告

- オーガ等に巻き込まれてケガをする恐れがあります。エンジン動作中は絶対に手や足などを入れないでください。
- 雪を取り除く場合は、必ずエンジンを停止してください。

警告

- 作業中の飛散物によってケガをする恐れがあります。エンジン動作中は投雪口を絶対に人や建物等に向けないでください。

警告

- 事故防止のため必ず取扱説明書を読んでください。
- 整備や修理・点検等を行う場合は必ずエンジンを止め、キーを抜いてから作業してください。事故の原因となります。

危険

- エンジン動作中はオーガ等に巻き込まれて死傷する恐れがあります。エンジン動作中は絶対に手や足などを入れないでください。
- 雪を取り除く場合は、必ずエンジンを停止してください。

危険

火気厳禁

給油時にはエンジンを停止してください。給油口に火を近づけると火災の危険があります。

警告

排気ガスに注意

中毒の恐れがあります換気の悪い場所では運転しないでください。

注意

マフラー高温注意

ヤケドの恐れがありますマフラーにふれないでください。

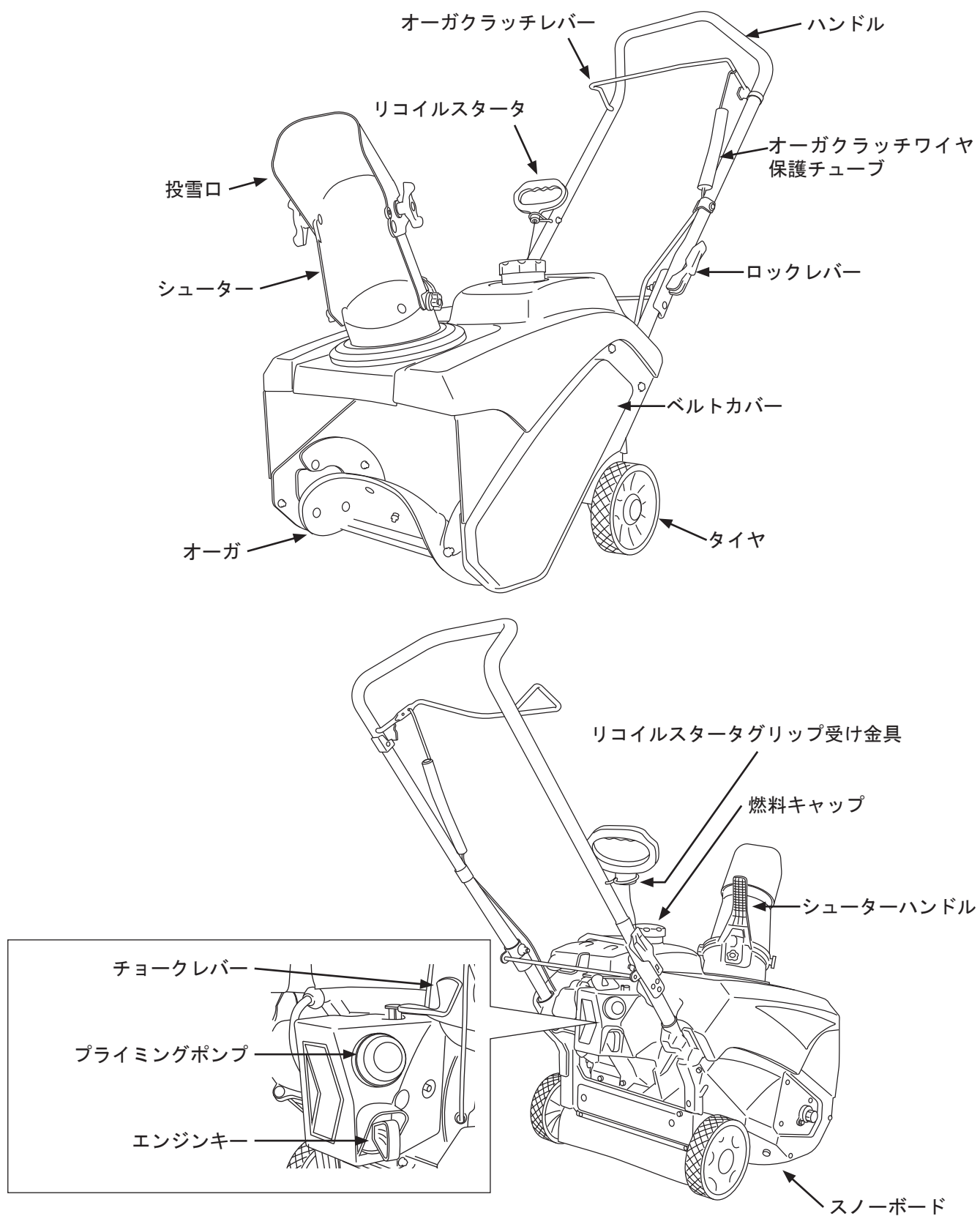
注意

安全のため取扱説明書をよく読み使用してください。

注意

ガソリン

2-2 各部の名称



2-3 仕様

型 式		MSB18
エンジン	型式 / 総排気量	LC154F / 87 cc
	定格出力 / 回転数	1.65 kW [2.2 ps] / 4300 min ⁻¹
	使用燃料	無鉛ガソリン（レギュラー）
	始動方式	リコイルスターター
	燃料タンク容量	1.6 ℓ
	エンジンオイル容量	0.35 ℓ
	点火プラグ	E7RTC（NGK 製 BPR7HS と互換性あり）
除 雪 部	除雪幅	460 mm
	除雪高	300 mm
	最大除雪量	15 トン/h
	最大投雪距離	8 m
	投雪方向	190°
本体寸法（ハンドル展開時）		全長 960 mm × 全幅 470 mm × 全高 980 mm
質 量		26 kg
付 属 品		プラグレンチ、安全キー（予備）

※仕様は改良のため予告なく変更することがあります。ご了承ください。

第3章 始動・運転と停止

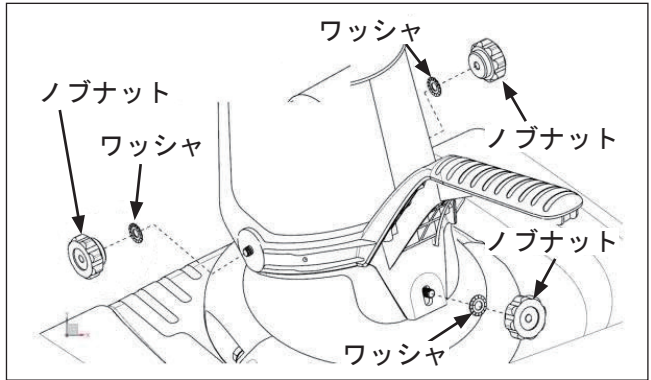
3-1 本体の準備

本体にシューターを取付け、折りたたまれているハンドルを起こします。

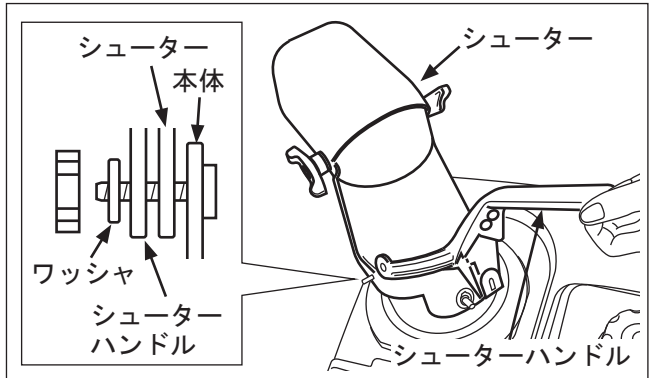
警告
エンジンキーを抜き、エンジンを停止した状態で行ってください。

3-1-1 シューターの取付け

- (1) 本体排出口の3つのノブナットとワッシャを取外します。
- (2) 本体排出口のボルトにシューターの取付穴とシューターハンドルの取付穴を合わせてボルトに通します。
- (3) 3つのノブナットを締付け、シューター、シューターハンドルを固定します。



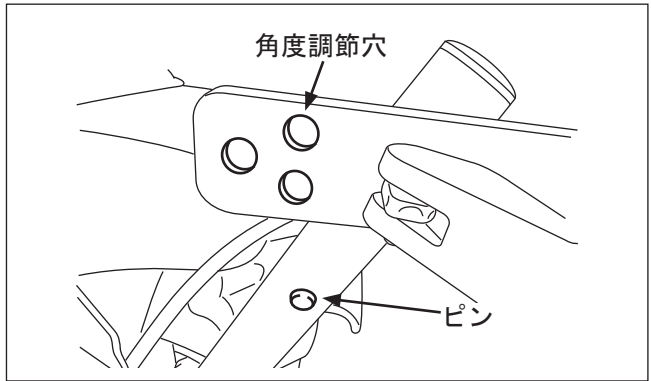
重要
樹脂製部品が破損しないよう注意して下さい。



3-1-2 ハンドルを起こす

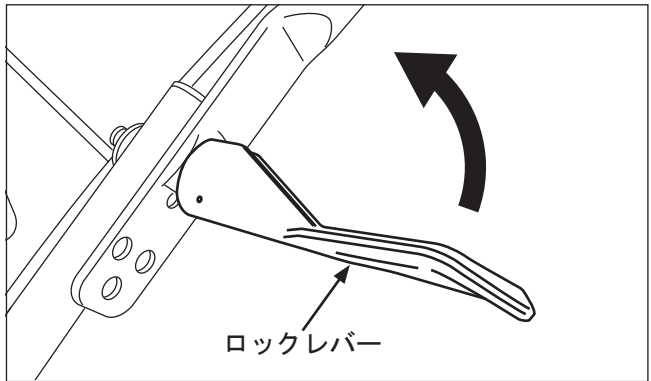
- (1) ハンドルを起こします。ハンドル根元の角度調節穴を、お好みの角度でピンにはめ込んで下さい。

重要
左右同じ位置の角度調節穴を選んで下さい。



- (2) ハンドル左右のロックレバーを押上げて、ハンドルを固定します。

重要
リコイルスターターのロープとアクセルワイヤーがハンドルのボルト等に引っかかっているか確認して下さい。



3-2 エンジン始動の準備

- 各部分のボルト・ナット類に緩みがないか点検し、緩みがあればしっかり取付けて下さい。
- 各部に付着している泥、ホコリ、油等を清掃して下さい。特にエンジンやリコイルスターター周辺はきれいにして下さい。

3-2-1 エンジンオイル量の点検方法

⚠ 警 告

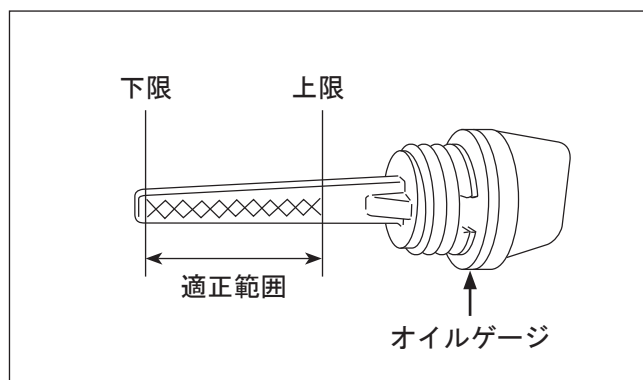
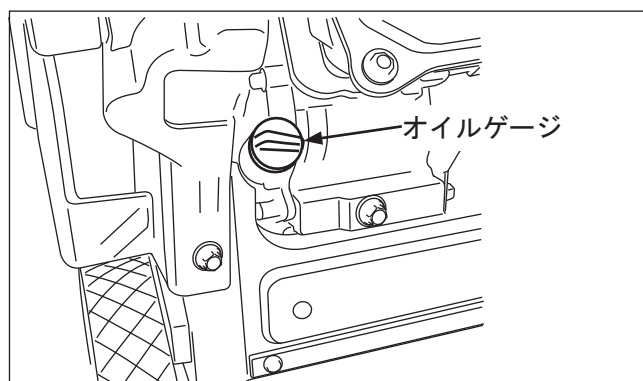
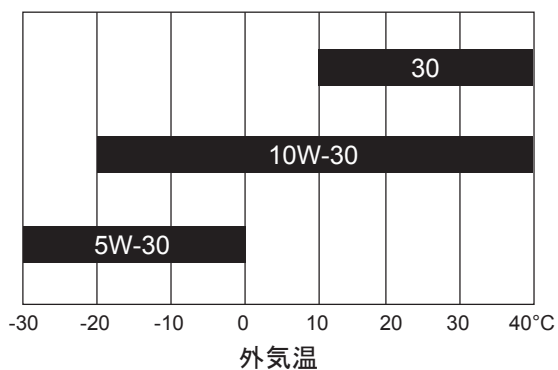
エンジンオイルの給油・交換・点検はエンジンが冷えてから行って下さい。エンジン停止直後はエンジンオイルが高温になっていますので注意して下さい。

重 要

エンジンオイルの量を点検する時は、本機を水平な所に移動させてから点検して下さい。

- (1) オイルゲージを取外します。
- (2) 初回は 0.35 ℓ 補給します。※ SAE 5W-30 推奨
- (3) オイルゲージをねじ込まずに、オイル量を点検します。ゲージの先端の刻みの範囲内であれば適量です。オイル量が最低油面より低い場合は API 分類 SE 級以上のオイルを給油して下さい。

エンジンオイルは、外気温に応じた粘度のものを表にもとづきお使い下さい。



3-2-2 燃料の給油

⚠ 警 告

- 燃料の無鉛ガソリンは引火し易いので注意して取扱って下さい。
- エンジンの運転中、給油中は絶対に煙草を吸わないで下さい。
- 給油前に静電気を除去して下さい。
- 万一燃料がこぼれた時は、完全に拭き取って下さい。
- 燃料は給油限界位置を超えないように補給して下さい。
- 給油キャップをしっかりと締めて下さい。
- 換気の良い場所で給油して下さい。

重 要

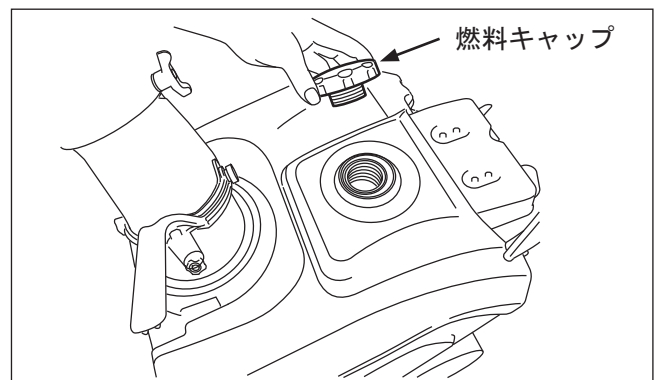
- 除雪時に燃料を補給する時は、燃料タンク内に雪が入らないように注意して下さい。燃料タンク内に雪が入ると、エンジン不調の原因になります。
- ハイオクガソリンは使用しないで下さい。
- 燃料を補給する時は、本機を水平な所に移動させてから行って下さい。

燃料キャップを外し、燃料の液面を確認し、少ない時は上限の位置まで補給してください。

燃料は自動車用無鉛ガソリン(レギュラー)を使用して下さい。

補給後は燃料キャップを確実に締めて下さい。

燃料タンク容量 : 1.6 ℓ



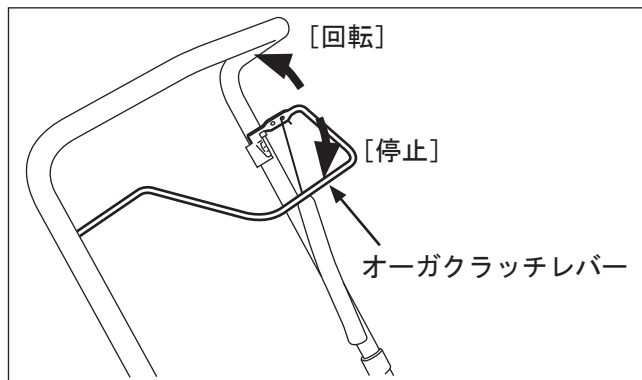
3-3 始動 / 運転 / 停止の方法

⚠ 危 険

- 屋内や換気の悪い場所でエンジンをかけないでください。ガス中毒を起こす恐れがあります。
- エンジンは平坦な場所で始動して下さい。

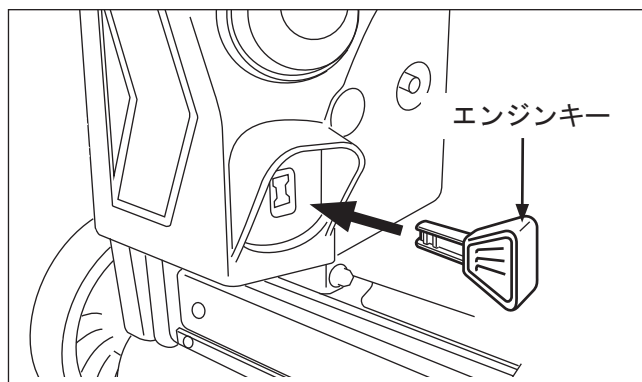
⚠ 注 意

- エンジンを始動する際、オーガクラッチレバーを握らないで下さい。

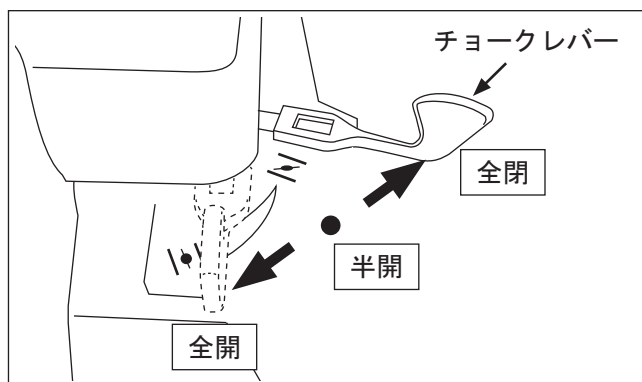


3-3-1 エンジンの始動方法

- (1) オーガクラッチレバーが停止位置にあることを確認して下さい。
- (2) エンジンキーを差込みます。



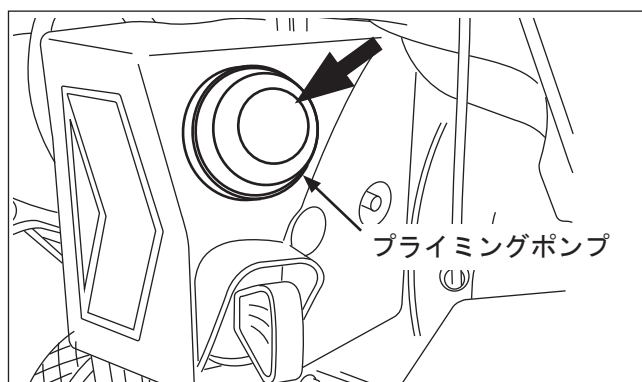
- (3) 気温が低い時、またはエンジンが冷えている状態から始動する時は、チョークレバーを「全開」もしくは「半開」にして下さい。気温が高い時、または運転停止後の暖まったエンジンを再始動する時は、「全開」もしくは「半開」にして下さい。



- (4) 特に気温が低い時はプライミングポンプを1～2回押して燃料をキャブレター内に送り込みます。

重 要

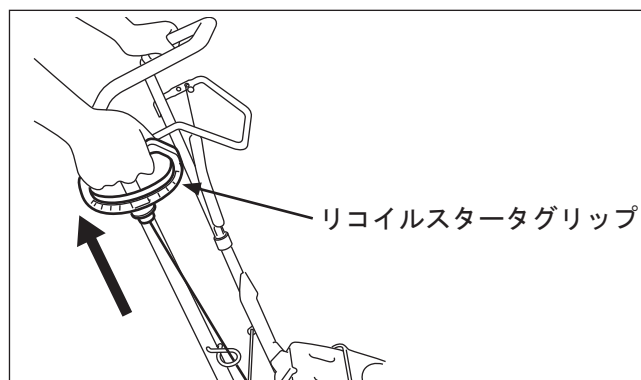
プライミングポンプを3回以上押すと、キャブレター内の燃料が多くなるため、始動しにくくなります。



- (5) リコイルスタータグリップを握り少し引くと手ごたえがあります。そこから勢いよく引っ張るとエンジンが始動します。始動しない場合は、数回繰り返します。

⚠ 注 意

リコイルスターターを引く時は、本機が転倒しないよう取っ手をしっかりと押さえ、リコイルスタータグリップをしっかりと握ってください。機械が不意に反転し、けがをする恐れがあります。リコイルスターターのロープを最後まで引いた後はロープから手を離さずにゆっくりと戻してください。ロープから手を離すと急激にロープが戻り、ロープの破損の原因になります。



重 要

エンジンが始動しない、またはすぐに止まってしまう場合、チョークレバーを「全開」にして、リコイルスタータグリップを引いて下さい。

- (6) エンジン始動後はチョークレバーを「全開」にします。

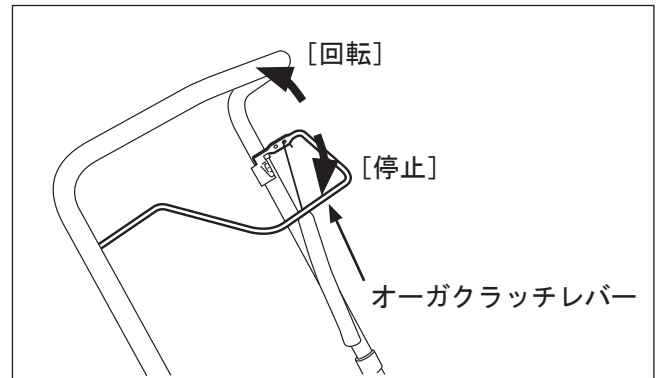
重 要

運転中はリコイルスタータグリップに手を触れないで下さい。エンジンに悪影響を与えます。

- (7) 2～3分暖機運転をして下さい。

3-3-2 運転方法

- (1) オーガクラッチレバーをハンドルと一緒に握ると、オーガが回転します。
- (2) オーガクラッチレバーを放すと、オーガの回転が停止します。



3-3-3 停止方法

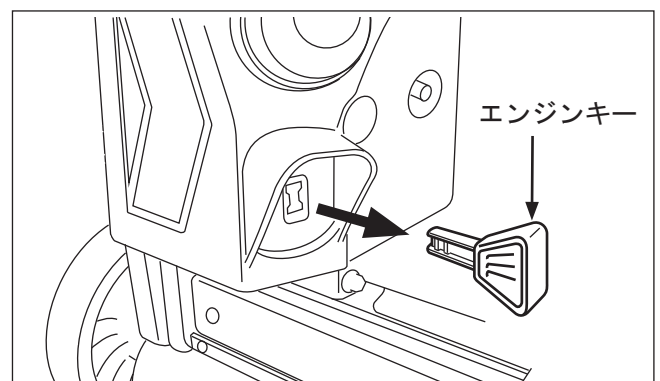
- (1) オーガクラッチレバーを放し、オーガの回転を停止します。
- (2) エンジンキーを抜きます。

▲ 注 意

エンジンキーに紐を取付け、作業の邪魔にならない長さで体に結び付けて下さい。不測の事態で体が機械から離れると、エンジンキーが抜ける事でエンジンがストップします。

重 要

作業後は各部の雪を取り除いてから格納して下さい。雪がついたまま放置すると凍結し、次の作業に支障があるばかりか、故障の原因にもなります。



第4章 除雪作業

4-1 除雪作業の準備

- 除雪作業を始める前に必ず「第1章 安全作業のために」をよくお読みになり十分理解してから行って下さい。
- 除雪作業は雪質などの雪の状態に影響されます。最適な除雪作業をするため、必要に応じて除雪幅や前進するスピードを調整して下さい。

⚠ 注 意

- 作業に応じて手袋、帽子、防寒服、防寒靴など作業に適した服装を着用して下さい。また防寒靴はすべり止めのあるものを着用して下さい。
- 本機の操作をする時は本機後方中央部に立ち、必ず両手でハンドルを操作して下さい。

重 要

使用中に音、臭い、振動など異常を感じたら直ちにエンジンを停止し、販売店に連絡して下さい。

4-2 除雪作業

⚠ 注 意

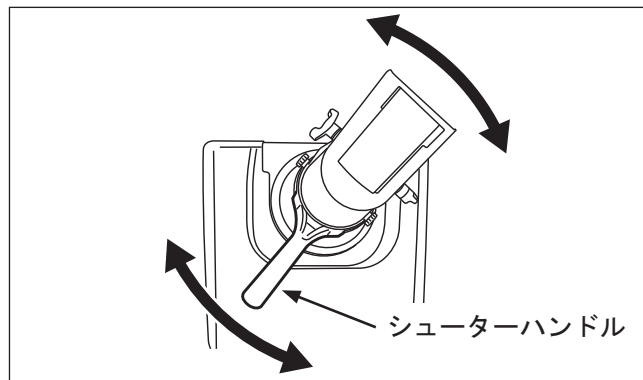
オーガクラッチレバーを握ると、オーガが回転します。レバーを握る時は周囲の安全を十分に確認して下さい。

作業場所に移動してから、エンジンを始動します。詳細は「3-3 始動 / 運転 / 停止の方法」(14 ページ)を参照して下さい。

(1) エンジンを始動します。

(2) 投雪方向を調節します。

シューターハンドルを操作して投雪角度を 190 度の範囲で調節します。

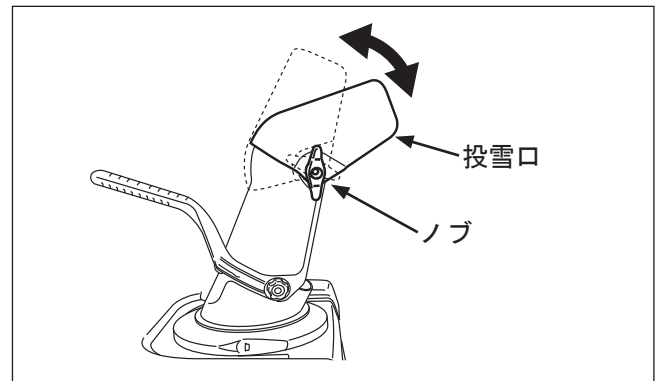


(3) 投雪距離を調節します。

投雪口左右のノブを緩めて投雪口を適切な角度に合わせます。

投雪口を上向きにするほど投雪距離が遠くなり、下向きにするほど投雪距離が近くなります。

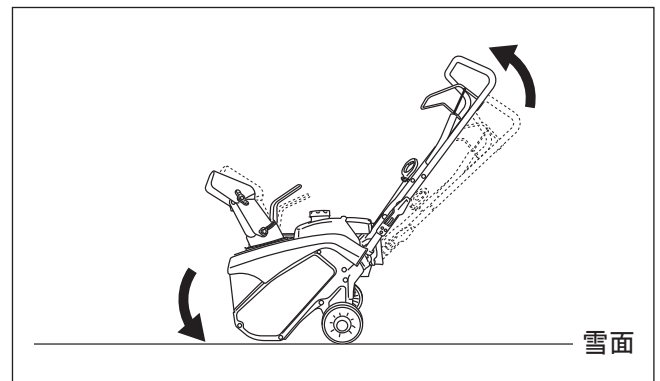
最後にノブを締めて投雪口を固定して下さい。



(4) オーガクラッチレバーを握って作業を開始します。

ハンドルを押上げて、オーガを雪に押し当てながら前進します。

エンジンの回転が落ちる場合、除雪幅を狭めたり、進行速度を緩めるなどして、エンジンにかかる負担を調整して下さい。



▲ 注 意

無理な負担がかかるとエンジンが停止する場合があります。

(5) 作業後は雪のない場所でオーガを空転させて、オーガに付着している雪を飛ばして下さい。

(6) オーガクラッチレバーを放し、スノーボードを接地させます。

(7) エンジンキーを抜き、エンジン停止を確認して下さい。

4-3 除雪部が詰まった時は

⚠ 警 告

- 除雪部及びシューターに雪や異物が詰まった時は、エンジンキーを抜いてエンジンを停止し、オーガが完全に停止してから取り除いて下さい。エンジンが回転している時は絶対に手を入れしないで下さい。大けがをする恐れがあります。
- 除雪作業中に投雪口に雪が詰まった場合は手で取り除かないで下さい。必ず雪かき棒などで取り除いて下さい。

4-3-1 投雪口・シューターに詰まった雪の除去

- (1) オーガクラッチレバーを「切」の位置にします。
- (2) エンジンキーを抜きます。
- (3) 各回転部が完全に止まっていることを確認します。
- (4) 雪かき棒などを使って、投雪口・シューターに詰まった雪を除去します。
- (5) 作業を再開します。

4-3-2 オーガに噛み込んだ異物の除去

- (1) オーガクラッチレバーを「切」の位置にします。
- (2) エンジンキーを抜きます。
- (3) 各回転部が完全に止まっていることを確認します。
- (4) 必要に応じてオーガ部の雪を除去し、噛み込んだ異物を取り除きます。

重 要

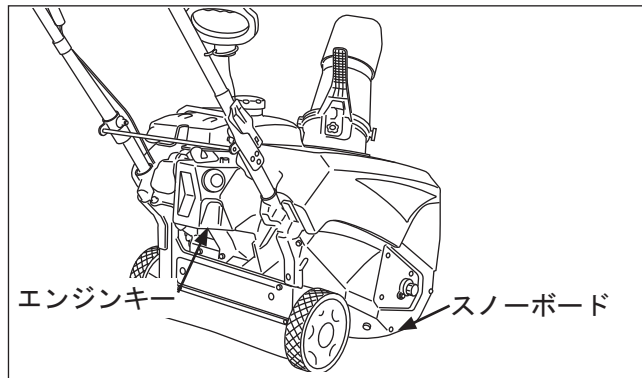
異物がオーガハウジング等に食い込んで除去しにくい時は、棒などを使ってオーガ部を逆回転させることで除去しやすくなります。

- (5) 作業を再開します。

第5章 保管方法

5-1 使用後の取扱い

- 平坦な場所に駐機して下さい。傾斜地に駐機すると、本機が空走し、事故の原因になります。
- スノーボードを接地させ、エンジンキーを抜いて下さい。
- 作業後は各部の雪を取り除いてから格納して下さい。雪がついたまま放置すると凍結し、次の作業に支障があるばかりか、故障の原因になります。



5-2 長期保存の方法

除雪シーズンが終わり長期間（30日以上）格納する時は、次のシーズンも快適にお使いいただくために次の手入れを必ず行って下さい。

- スノーボードを接地させ、エンジンキーを抜いて下さい。リコイルスタータグリップを引き、重くなったところで止め、静かにグリップを戻して下さい。
- エンジン、マフラーが完全に冷えてからカバー等をかぶせて下さい。
- 可能な限り乾燥した屋内に格納して下さい。
- 周囲に子供や動物が近づかないようにして下さい。
- 長期間保存する場合は、燃料タンクの燃料を抜いてから保存して下さい。詳細は「5-2-1 燃料の排出」(21 ページ) を参照して下さい。

5-2-1 燃料の排出

⚠ 警告

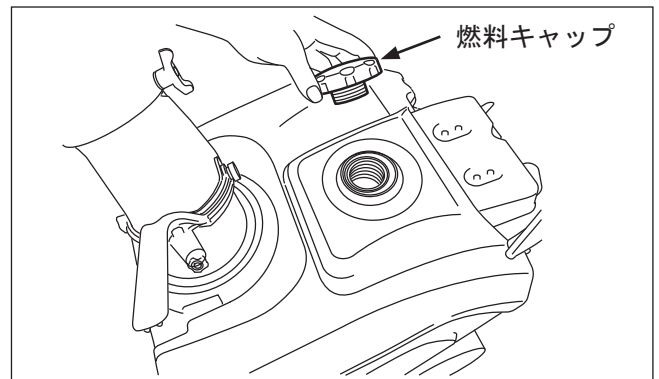
- ガソリンは非常に引火しやすく、気化したガソリンは爆発して死傷事故を引き起こす恐れがあります。
- エンジン運転中、給油中は、絶対に煙草を吸わないで下さい。
- 換気の良い場所で取り扱って下さい。
- 火気を近づけないで下さい。
- ガソリンはこぼさないようにして下さい。万一こぼれた時は、布などで完全に拭き取り、拭き取った布きれなどは火災と環境に十分注意して処分して下さい。

重 要

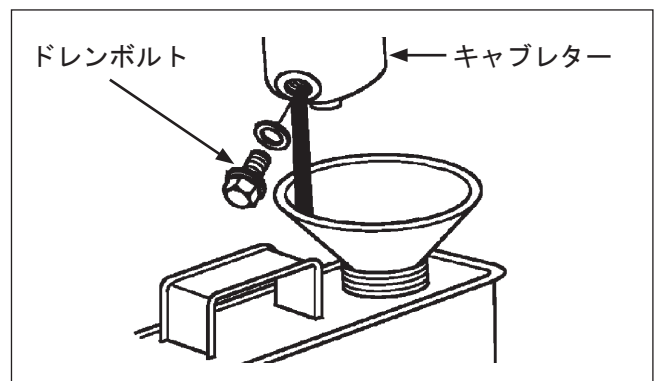
次回使用時には新しい燃料を補給して下さい。古い燃料を使用すると故障の原因になります。

燃料タンク、キャブレターの燃料を抜きます。

- (1) 燃料キャップを外し、燃料タンク内に残っている燃料を、市販の手動ポンプを使って抜き取ります。



- (2) エンジンの右側にあるキャブレターのドレンボルトを緩めて燃料を容器に受けます。

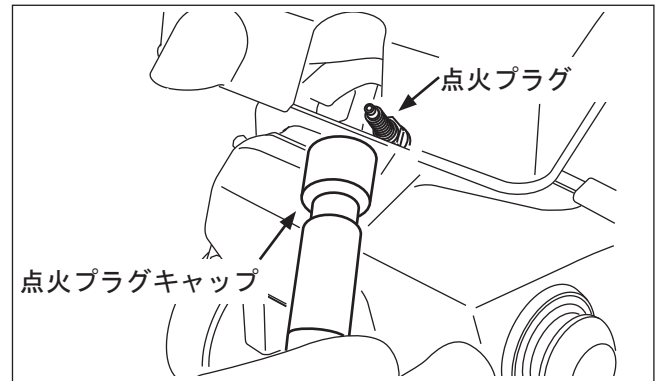


- (3) 完全に抜いたらドレンボルトを確実に締め付けます。

- (4) 燃料キャップをしっかりと取付けます。

5-2-2 エンジンの手入れ

- (1) 点火プラグを外し、エンジンオイル 5W-30、10W-30 相当をシリンダに少量注入します。
- (2) 点火プラグを取付けてから、リコイルスタータグリップを数回引いてシリンダ内を潤滑させます。
(シリンダ及びバルブの錆発生防止)



5-2-3 点検と防錆

各部ボルトの破損、腐食、ゆるみの点検をし、金属部の防錆を行って下さい。

5-3 長期保管後の始動

- 燃料タンクに新しいガソリンを補給して下さい。

⚠ 注 意

燃料タンクに古いガソリンが残っている時は、必ず新しい燃料に入れ替えて下さい。古い燃料を使用すると燃料の変質により始動不良、運転不調の原因になります。

- 年1回除雪時期の初めに、次の点検を行って下さい。
 - ・ エンジンの始動・停止
 - ・ オーガクラッチレバーの作動
 - ・ その他の可動部分の作動

第6章 保守点検

点検整備を行う前に作業の内容を確認して下さい。ご自身で作業ができない場合はお買い上げの販売店へご相談下さい。

⚠ 危険

点検・整備は換気の良い平坦な場所で必ずエンジンキーを抜いてエンジンを停止した状態で行って下さい。

6-1 エンジンオイルの交換

(初回 20 時間、2 回目以降 6 か月または 100 時間ごと)

⚠ 警告

- エンジン停止直後はエンジン本体やオイルの温度が高くなっています。十分冷えてからオイル交換を行って下さい。
- 補給、交換時にこぼれたオイルは布きれなどで拭き取って下さい。エンジン高温部、マフラー等に付着すると火災の原因となります。

推奨オイル：API 分類 SE 級以上の SAE 5W-30

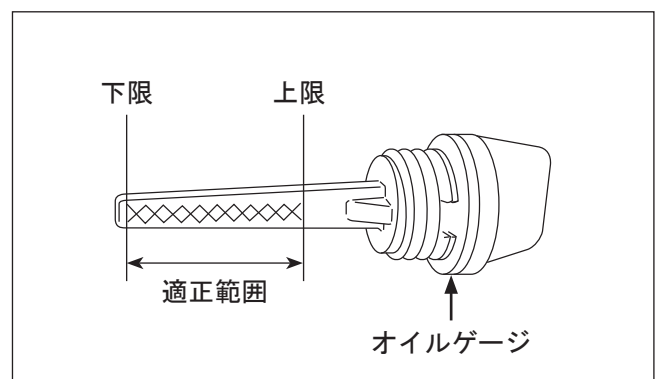
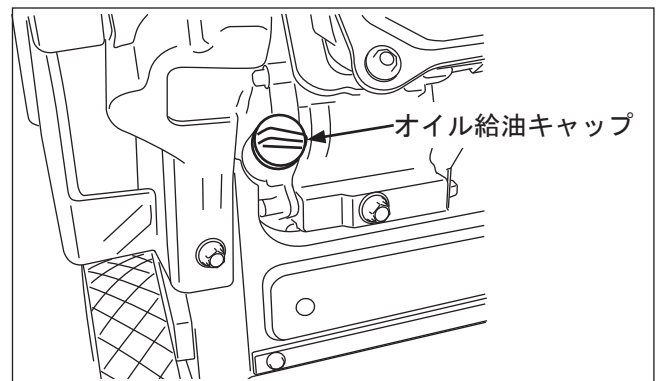
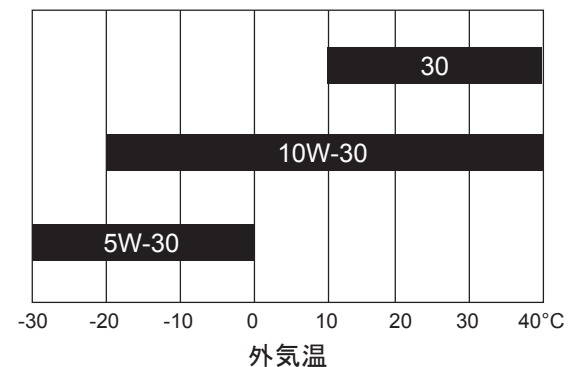
オイル容量：0.35 ℓ

- (1) 市販のオイルチェンジャーを準備して下さい。
- (2) 本機を平坦な場所に停止させます。
- (3) オイル給油キャップを外し、オイル給油口にオイルチェンジャーのノズルを深く差し入れます。
- (4) オイルチェンジャーを操作して、オイルを完全に抜き取ります。
- (5) 新しいエンジンオイルをオイルゲージの適正量範囲まで入れます。
- (6) オイル給油キャップを確実に締め付けます。

重要

- 交換後のエンジンオイルは法令に従って適正に処理して下さい。
- オイルは使用しなくても自然に劣化します。定期的に点検・交換して下さい。

エンジンオイルは、外気温に応じた粘度のものを表にもとづきお使い下さい。



6-2 点火プラグの点検、調整

(6 か月に 1 回または 100 時間ごと)

(交換時期:1 年に 1 回または 300 時間ごと)

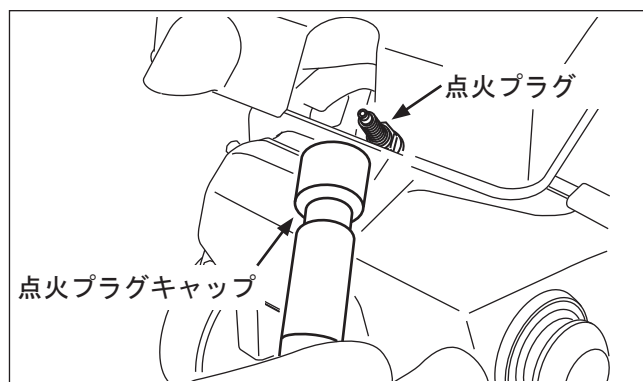
⚠ 注 意

エンジン停止直後のマフラーや点火プラグなどは非常に熱くなっています。ヤケドをしないよう作業はエンジンが冷えてから行って下さい。

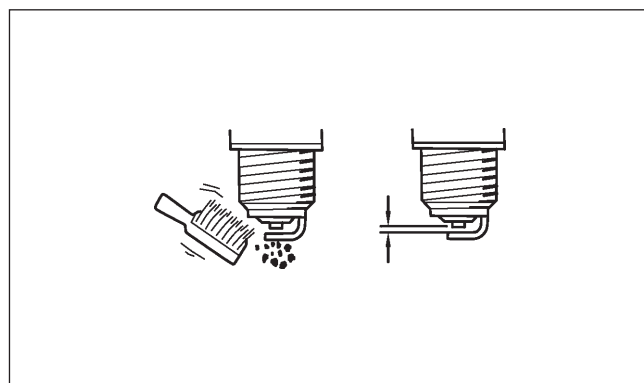
適正すき間：0.7～0.8mm

指定プラグ：E7RTC (NGK 製 BPR7HS)

- (1) 点火プラグキャップを取外します。
- (2) プラグレンチで点火プラグを取外します。
- (3) 電極の汚れをプラグクリーナまたはワイヤブラシで落として下さい。



- (4) 側方電極を曲げて火花すき間を調整します。
- (5) 点火プラグを確実に締め付け、点火プラグキャップを取付けます。



重 要

- 故障の原因となるので指定以外の点火プラグを使用しないで下さい。
- 点火プラグの取付けは、ネジ山を壊さないように、まず手でねじ込み、次にプラグレンチを使って確実に締め付けて下さい。
- 点検・調整後は点火プラグキャップを確実に取付けて下さい。確実に取付けないとエンジン不調の原因となります。

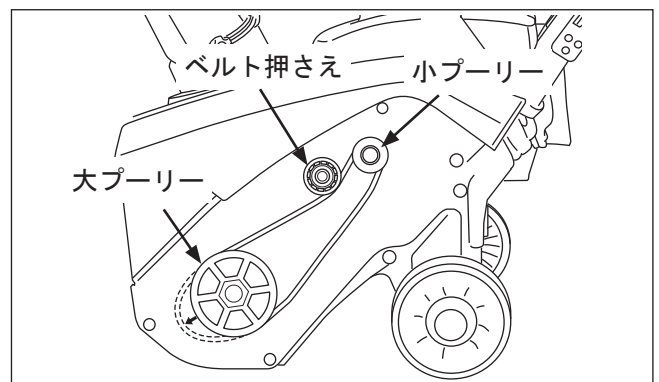
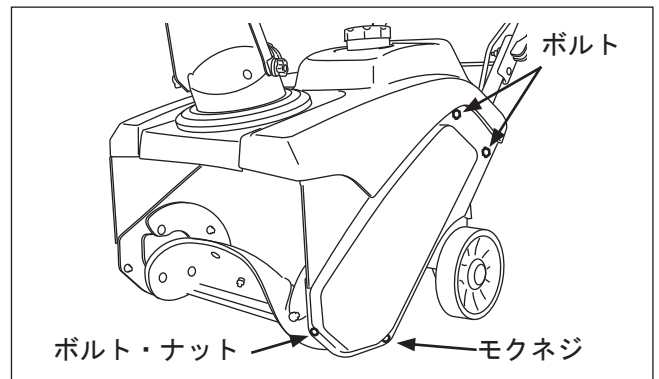
6-3 オーガベルトの交換

オーガベルトが摩耗したり切断したりした時は、以下の要領で新しいものと交換してください。

⚠ 警 告

オーガベルトの交換は必ずエンジンキーを抜いてエンジンを停止した状態で行ってください。

- (1) ベルトカバーを止めているボルト（4ヶ所）を取外します。
- (2) 大プーリーに掛かっているベルトを外します。ベルトを外側に引っ張りながら、オーガを手でゆっくりと回すと外れます。
- (3) 小プーリーに掛かっているベルトをベルト押さえの際間から外します。
- (4) 逆の手順で、新しいベルトを大小のプーリーに掛けます。
- (5) エンジンを始動してオーガクラッチレバーを握ります。プーリーとベルトの動きに異常がない事を確認して下さい。
- (6) ボルトの位置に注意し、ベルトカバーをしっかりと固定します。



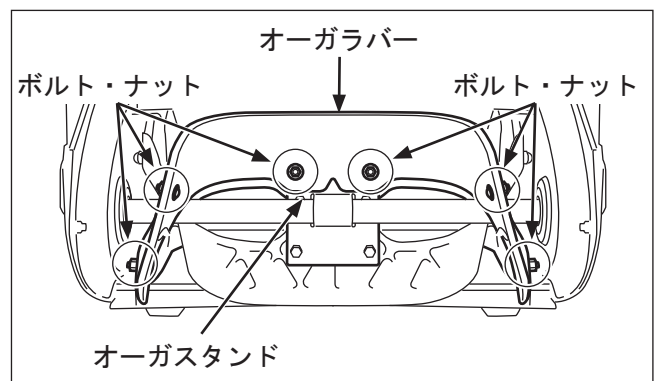
6-4 オーガラバーの交換

オーガラバーが摩耗したり損傷したりした時は、以下の要領で新しいものと交換してください。

⚠ 警 告

オーガラバーの交換は必ずエンジンキーを抜いてエンジンを停止した状態で行ってください。

- (1) オーガラバーを止めているボルトとナット（6ヶ所）を取外します。
- (2) オーガラバーを取外します。
- (3) オーガスタンドに、表面が上になるようにオーガラバーを乗せます。オーガラバーの平らな面が表面、三角の溝がある面が裏面です。
- (4) ボルトとナット（6ヶ所）をしっかりと締め付けます。



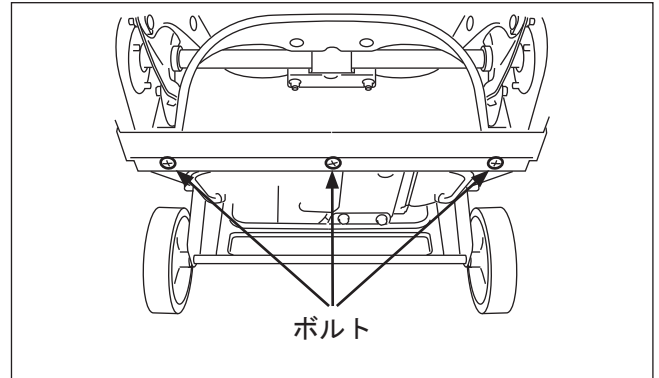
6-5 スノーボードの交換

スノーボードが摩耗したり損傷したりした時は、以下の要領で新しいものと交換して下さい。

⚠ 警 告

- スノーボードの交換は必ずエンジンキーを抜いてエンジンを停止した状態で行って下さい。
- 機械を横倒しや斜めにしないで下さい。

- (1) オーガ底部のボルト (3ヶ所) を緩めてスノーボードを取外します。
- (2) 新しいスノーボードを取付けます。ボルトをしっかりと締め付けて固定して下さい。



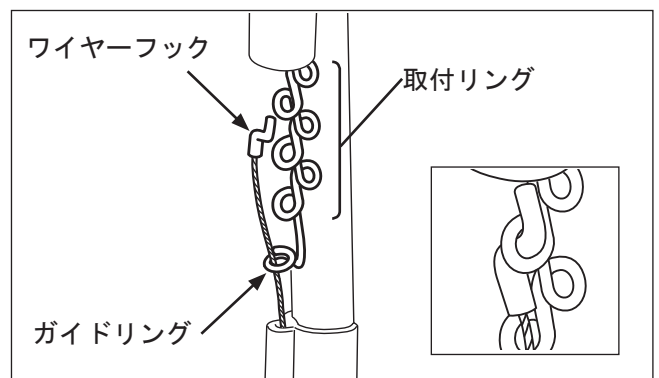
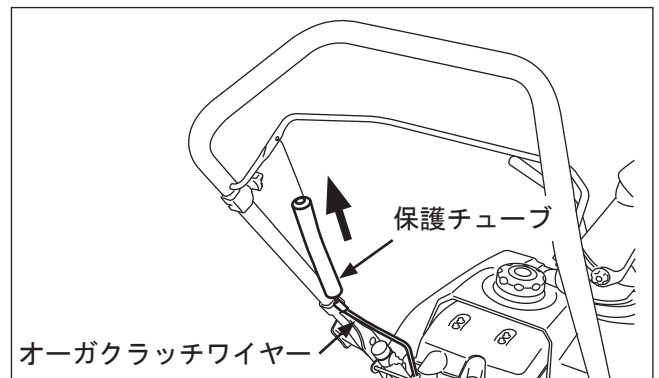
6-6 オーガクラッチワイヤーの調整

オーガ操作が適切にできない (オーガクラッチレバーの遊びが多いまたは少ない) 時は、オーガクラッチワイヤーの張りを下記の要領で調整して下さい。

⚠ 警 告

オーガクラッチワイヤーの調整は必ずエンジンキーを抜いてエンジンを停止した状態で行って下さい。

- (1) オーガクラッチワイヤーの保護チューブを上に戻します。
- (2) ワイヤーフックを取付リングから外します。
この時、ワイヤーはガイドリングに通したままにして下さい。
- (3) 遊びを少なくする場合は、ワイヤーフックを上側の取付リングに取付けて、オーガクラッチワイヤーの張りを強くします。
遊びを多くする場合は、ワイヤーフックを下側の取付リングに取付けて、オーガクラッチワイヤーの張りを弱くします。
- (4) 保護チューブを元に戻します。
- (5) エンジンを始動してオーガが正常に動作することを確認して下さい。



⚠ 注 意

オーガクラッチレバーを放してもオーガが回転する場合は、オーガクラッチワイヤーの張りを再度調整して下さい。

第7章 トラブルシューティング

症 状	原 因	処置の仕方
エンジンが始動しない。	<ul style="list-style-type: none"> ● 燃料タンクに燃料が入っていない。 ● 燃料の吸込みすぎ。 ● 燃料に水が混入している、または古い燃料を使用している。 ● キャブレター詰まりでエンジン内に燃料がきていない。 ● その他 	<ul style="list-style-type: none"> ● 燃料を補給する。 ● チョークレバーを「閉」にして、再度始動する。 ● 新しい燃料に交換する。 ● キャブレターの分解清掃。 (販売店にご相談下さい) ● 取扱説明書に従って正しい手順で始動しているか点検する。
エンジンが始動しにくい、または出力が上がらない。	<ul style="list-style-type: none"> ● 点火プラグにカーボンが付着している、または故障している。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 清掃する。 ● 新品と交換する。
オーガが回転しない。	<ul style="list-style-type: none"> ● 異物を噛み込んでいる。 ● オーガベルトがスリップしている。 ● オーガベルトが切れている 	<ul style="list-style-type: none"> ● 異物を取り除く。 ● ベルトを調整する。 (販売店にご相談下さい) ● 新品と交換する。
オーガクラッチレバーを放してもオーガが停止しない。	<ul style="list-style-type: none"> ● オーガクラッチワイヤーの張りが強すぎる。 	<ul style="list-style-type: none"> ● オーガクラッチワイヤーを調整し、張りを弱める。
シューターから雪が出ない。	<ul style="list-style-type: none"> ● 投雪口・シューターに雪が詰まっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 雪かき棒などで雪を落とす。
雪を集められない。	<ul style="list-style-type: none"> ● オーガに雪が付着している。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 雪かき棒などで雪を落とす。

スノーブロワ MSB18 保証書

本保証書は日本国内のみ有効です。 This Warranty is valid only Japan

お客様の正常なご使用において万一故障が発生した場合は、当保証書記載の規定により、無償で交換または修理させていただきます。

- 保証期間内（お買上げ日より6ヶ月間）に正常なご使用状態において万一故障が発生した場合は、無償で交換または修理させていただきます。その際はお買上げの販売店にご連絡下さい。
- 次のような場合には保証期間内の故障でも有償とさせていただきます。（郵送料等諸掛りはお客様のご負担となります。）
 - 本保証書にお買上げ日及び販売店名の記入・捺印が無い場合。
 - 誤用・乱用及び取扱不注意、取扱説明書の禁止事項による故障又は損傷の場合。
 - 弊社指定の販売店以外での修理・改造・分解が行われた場合。
 - 火災・地震・水害及び盗難等の災害・不適切な移動・落下などの場合。
 - 使用中に生じたキズ・汚れなどの外観上の変化、ガソリン・エンジンオイルなどの汚れ。
 - 付属品の交換。
 - 原因が本製品以外に起因する場合。
 - 本保証書の指示がない場合及び必要事項の記入が無い場合。

製品名	MSB18	本製品番号	
お客様	ご住所 〒		
	ご氏名		
お買上げ日	年 月 日	保証期間	お買上げ日より6ヶ月間
販売店	ご住所 〒		
	ご氏名		

本保証書は製品番号、お買上げ日、販売店の記載がない場合は、無効とします。

必ずご確認ください、記入なき場合はお買上の販売店にお申し出下さい。

この保証書は再発行いたしませんので大切に保管して下さい。

この保証書は、本書に明示した期間・条件のもとにおいて無償で交換又は修理をお約束するものです。

したがってこの保証書によってお客様の法律上の権利を制限するものではありません。

